

学校の再開を願って

ーパソコンなど職員室必要用文具を届けてきましたー



【支援報告会の開催】

4月7日夜、陸前高田市モビリア避難所への支援物資運搬の報告（No.1参照）と今後の支援を検討するための会を行いました。23人の出席があり、2時間をかけての報告会となりました。①学校の再校に向けた支援、②一定期間の継続的な子どもたちの支援、について賛同が得られると同時に、学校の再校のためのニーズの対応には、幅広いネットワークの活用が必要であること、継続的な支援を行うためには、移動する人と移動する経費という両面からの資源調達が必要であることが確認されました。また、大和市の行政からの参加もあり、市民活動という側面からの支援をいただけそうな感触でした。

報告会終了後すぐに、8日夜出発する支援隊に加わる2人の希望者があり、5人編成の車1台での訪問が決まりました。また、すたんどばいみーは、子どもたちに対する継続的な支援を行うことを表明し、毎回2人ずつ4月16日から継続的に参加することで日程調整に入るとのことでした。そのほかにも多くの方々から参加・資金援助の申し出がありました。

ところが、その夜23時32分に宮城県沖で大きな地震がおこり、東北自動車道は通行止めとなり、東北地方の3県にまたがった停電が報道されました。第2回の支援に行くかどうかは、この通行止めが解除になるかどうかということにかかっておりましたが、出発直前の8日20時に一関ICまでの開通の情報が得られましたので、出発することとなりました。また、今週末の陸前高田の天気は雨ということでしたので、雨具等の準備が必須となりました。

今回は、後に記します第1回の支援の報告会を受けて、学校を再開するための職員室に必要なパソコンを始めとする文具を提供することと、新たなニーズの把握、さらに、子どもたちへの今後の継続的な支援のための場所等の確保を目的としていたため、宿泊なしの強行軍にての支援活動としました。特に、今回は若手の中学校の先生が同行してくださいましたので、このような強行日程を組むことができました。

ているようなところもありました。その中で、写真のように重機が元の形を留めていない様子を目にし、津波の勢いをあらためて感じました。報道にもあるようにこのような状況が、400キロメートルに渡って広がっていることを想像すると、復興に向けた動きが一度には行えない状況があり、復興に向けて動き出している地区とそうでない地区があることを理解しておくことの必要を感じました。



【信頼の小さな芽】

前回の訪問でお会いすることのできた小友中学校の加藤清校長先生に、お約束した品物を届けることができました。もちろん、一週間前に初めてお会いし、口約束での支援であり、通信状況も良くないために一週間連絡もとれない状況でしたので、支援の提供と支援の受入がうまくいくのかどうかは、本当のところ半信半疑でした。しかしながら、早朝の教員避難所で、生徒さんのご葬儀に出かける前の校長先生にお会いすることができ、支援物資を大変喜んでくださり、その物資を、仮職員室となる小友小学校の会議室までお届けすることができました。校舎には、東京都の職員のボランティアの方々が、開校準備として、校舎の泥の撤去や掃除を行っておられました。

今回の支援物資として持ち込んだ内容のリストをお渡しし簡単な説明を行うと同時に、支援を継続するための補助金申請に関わる相談、今後の必要物資に関わる聞き取りなどを行いました。わずか30分ほどの時間でしたが、そこに「信頼」の小さな芽が出たことを感じることができました。また、教務主任の先生にもお会いすることができ、その先生は小友小中学校が母校だそうで「あっといく間に、なくなってしまいました」と話されておりました。一つの言葉に込められるその思いの深さはいかばかりかと思うのですが、それに返す言葉もなく、ただ「できることはします」とこたえるのが精一杯でした。そして、その言葉を形にすることが、今回の行動の意味であることに気が引き締まる感じでした。

また、4月より赴任された小友小学校の澤里校長先生にお会いすることができ、今後の継続的な支援のお話をさせていただきました。澤里校長先生は、今回の震災で夫と娘さんを亡くされたとのことで、そのご心痛はいかばかりかと、それでも次に進まなければならない状況にありました。

【一週間の変化】

前回の訪問から一週間という期間、その間に街はどのように変わっていくのか、という変化を把握することは、今後の支援を考える上で重要な点であると考えておりました。陸前高田市では、一方で、写真のように大型重機が入り、砕け流され廃材と化した家や車などを、鉄骨とそれ以外に分けて固めていくような作業が行われている様子がありました。他方、漸く道路が開いたような地区では、その当時のままの姿が残っ



【多様なニーズ】

加藤校長先生とのお話の中で、用務員さんを含め学校職員の移手段がないことが、現在、一番困っているとのこと、今回の主な支援物資は「中古の軽トラック」が決まりました。また、市内のガソリンスタンドが壊滅しているために、ガソリンの調達も他市に行かなければならないということでしたので、「ガソリン」も必要であることがわかりました。加藤校長先生からのニーズをもとに、後に示すような支援体制を実行することとなりました。

また、加藤校長先生から隣の地区の広田中学校の校長先生にも連絡がとられ、支援のネットワークが少し広がりました。広田中学校の校長先生は外出中でしたが、概観だけでも確認しようと、広田中学校にも出向いてきました。しかしながら、広田中学校は壊滅状態であり、その機能は、広田小学校に移されており、それと同時に、広田小学校は避難所でもあることから、広田小学校の職員には、避難所との関わり、中学校との関わり、さらに、小学校の再開という3つの役割が求められていることもわかりました。被災の程度により、その地区で、学校に求められる役割に違いがあり、小友小中学校への支援と広田小中学校への支援が同じではないことを理解しておくことが必要であると感じました。

【当面の支援・ご協力いただきたいこと】 4月10日現在

■ 4月16日～17日（15日夜発）の第3回支援

- 広田小中学校 主な支援物資：軽トラック（中古・車検2年）・ガソリン
その他の物資：保健室再開の必要物資、
職員室使用の文具（わら半紙・色上質紙など）

■ 4月23日～24日（22日夜発）の第4回支援

- 広田中学校 主な支援物資：部活動用具 その他の物資：未定

■ 今後の支援のためにご提供いただきたい物資

- 現地への提供物資
 - ・中古の軽トラック
 - ・部活動用具を収める物置
- 支援のための必要物資
 - ・イベントの必需品（テント・軽い折りたたみ椅子）
 - ・ボランティア宿泊用テント・ガソリン用タンク（20リットル）

※ご提供いただけそうな方はご一報ください。また、同行いただける方（第5回以降、金曜日の夜8時大和市出発予定）も、是非お申し出ください。

【モビリア避難所】

小友小中学校の訪問の後、モビリア避難所にうかがいました。避難所の生活にも少しずつ変化が見られました。理容師による散髪、医者による巡回診察、学校の先生による訪問学習会の時間が書き込まれたカレンダーが張り出されていました。「すたんどばいみー」による子ども支援の活動を説明し、時間と場所を検討し、カレンダーにも、「神奈川すたんどばいみー」と書かれました。子どもたちは顔を覚えてくれていたよ

うで、記憶を辿っている様子がうかがえました。また、同行した中学校の先生とは、少しの時間、遊ぶ機会がもてました。「来週も来るから」と伝えて、避難所を後にしました。避難所の施設の運営に関わっている蒲生さんは、「ボランティアの人に、『ここでは泣かないでほしい。俺たちだって泣いてないんだから』と伝えてほしい」とのことでした。肝に銘じておく必要があると思います。

【大船渡市】

今回の支援活動を行う中で、災害支援のための車両は「災害派遣等従事車両証明書」の交付を受けられれば、高速道路が無料になるという情報を受けて、その申請を行いました。ただし、手続きが陸前高田市に隣の大船渡市の合同庁舎で行われていることから、やはり震災を受けた大船渡市に足を伸ばしました。陸前高田市の壊滅と比べれば被害の規模は少しは小さい様子でしたが、数メートル違うだけで、震災の影響の大きさが全く異なる様子に、陸前高田市とは異なる状況を見ることとなりました。震災後、1ヶ月となりますが、陸地に上がった大型船は、まだそのままありました。



【ご協力に感謝!!】

■ 今回の支援隊のメンバー

- 家上幸子（Ed.ベンチャー事務局長）・清水睦美（東京理科大学）
柿本隆夫・福島良彦・小沼慶多（引地台中学校）

■ 小友小中学校の教職員の避難所

- 寄付からの買い出しによる支援
ノートパソコン2台・USBメモリ・ファイル・その他の文房具
- 提供された物資による支援
プリンター2台・スキャナー1台・紙5000枚・USBメモリ・その他文房具

■ ご協力いただいたみなさま（敬称略、順不同、物資・寄付を含む）4/4～4/8

- 内藤敏夫（内藤材木店）、林俊明（大和商工会議所）、堀健志（東京理科大学）
山田哲也（一橋大学）、柴崎崇（大和市社会福祉協議会）、菊原博子（大和小学校）
佐々木亮（東京理科大学）、グイキムチャーイ（会社員）
角替弘規（桐蔭横浜大学）、座間三菱自動車、丸源自動車、ヨドバシカメラ町田店

NPO 法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp



今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180 Ed.ベンチャー東日本大震災支援